

このページは、小・中学生に向けて梅光学院大学子ども学部子ども未来学科(地域共生ゼミ)の学生が作っています。

※イラスト 渡邊志帆さん

しものせき キッズページ

「ふくふくこども館って どんなところ？」



▲ボールプールで元気いっぱい遊ぶ子どもたち。みんなで仲良く遊べて、友達が増えるのも楽しみですね。

平成26年4月1日にJ・R下関ビル3階にオープンした、子育て支援施設「ふくふくこども館」。ここではどんなことができるのか、何があるのか、取材しました。

.....
ふくふくこども館とは？

ふくふくこども館とは、「次代を担う子どもたちを多世代で育む」を基本コンセプトとした市民の交流と子育て支援の拠点施設です。下関市では、次世代を担う子どもたちが、健やかに、たくましく育ち、子どもの笑顔があふれる都市を目指し、子どもと子育てを応



援する地域づくりを進めています。これは「下関市総合計画後期基本計画」の重点プロジェクトの一つ「子ども・子育て応援プロジェクト」の事業となっております。

ふくふくこども館の役割は、大きく分けて4つあります。さまざまな遊びと学びを提供する「遊び・体験学習」、地域の子育てに関わる人々をサポートする「子育て家庭支援」、市民を結びつけ下関を元気にする「地域活力増進」、そして、下関らしさを楽しく伝える「郷土文化伝承」です。

プレイランドを のぞいてみよう！



ふくふくこども館には、①プレイランド、②交流スペース・クリエイティブランド、③こども一時預かり室、④多目的室、⑤相談室の5つのスペースがあります。プレイランドは、小学校入学前の子どもたちが親子と一緒に遊ぶことができる1番活発なところです。中でも直径約7.5メートルの「ふくファミリーボールプール」は、子どもたちの興味を引いています。交流スペース・クリエイティブランドは、子どもたちの作品展示や、さまざまなものづくりのプログラムができるスペースです。

専門保育士が子どもを預かることも一時預かり室や、悩み相談を受け付けている相談室も、今後のふくふくこども館の発展に重要な役割を果たしていくことでしょう。

ふくふくこども館の これから

下関の一大プロジェクトとしてオープンしたふくふくこども館。

初日の利用者は約1800人、記録。平日は700人、土・日曜日は平均2000人、2500人だそうです。年間10万人の利用者が目標で、取材をした4月26日現在で3万人を超しており、目標達成は間近といえそうです。県外利用者も多く、東京や広島、松山からの来館者もいたようです。

このように、日本中が注目しているふくふくこども館。今後さらなる発展が期待されています。皆さんもぜひ、足を運んでみてはいかがでしょうか。

★ふくふくこども館★

▽開館時間 午前10時～午後6時
※休館日 水曜日、12/29、1/1
☎ 227-2581



6月号の編集記者(左から) 村田宏仁さん、原田陽さん



▲「ゆらゆら関門橋」は関門橋をモチーフにしたネット遊具で、元気なからだづくりをサポート。



▲プレイランド内には、「じしゃくであそぼう」などの遊び場がたくさん！

元気

まち物語

2014.6



かぐや姫の里づくりの会



復活と竹の有効活用のために立ち上がったのが、会の皆さんです。

竹の良さを、皆に

現在、会員は約10人。月に2回、和気あいあいとしながらも、熱心に活動しています。1年を通して行う伐竹活動に加え、1月から5月はタケノコ掘り、5月から6月までは竹をゆすって上の枝を折る「ウラ止め」、追肥をしています。秋は竹細工研究会など、活動は季節によってさまざま。年に2回の里山体験交流会では竹を身近に感じてもらうと、春はタケノコ掘り、冬はミニ門松作りなどを行っています。

「竹は成長が早く、あっという間に密集してしまいます。そうしたおいしいタケノコが採れなくなるんです」と代表の上野建司さん。伐竹やウラ止めを行うことで、日当たりが良くなり、地下へも栄養が行き渡るようになり、良いタケノコができるのです。

古里を大切に想う心とともに

伐採した竹がどうなるか、皆さん知っていますか。門松や竹細工、

竹楽器の製作など、できる限り有効活用しています。しかし、昔ほど資源が循環していかないことに加え、竹はなかなか腐らないため、処分が大変とのこと。会では、安全対策を施したうえで、敷地内で竹を焼いて処分しています。「竹を焼いても有害なものはありませんので、周辺住民の方のご理解とご協力をお願いしたいです」と会の方。正しい知識を持ち、皆がさまざまな形で協力することで、よりよい地域となっていくでしょう。現在整備しているのは、小野たぬ池周辺の竹林。人手が増えれば、「他の荒れた竹林も整備していきたい」と上野さん。「大好きな里山のために」と、今日も活動を続けています。

★一緒に活動しませんか★
☎090-2393-9861

- ①「この斜面にアジサイを植えたらいいかもね」など、竹林を整備しながら語る、会の皆さん。（一番左が代表の上野さん）
- ②密集した竹を切っています。5年～6年過ぎたものから切っていくそうです。
- ③春になると、タケノコが次々と顔を出します。
- ④「タケノコ見つけた！」

